

『益富地学賞』募集要項



公益財団法人 益富地学会館

◇主 旨

益富地学会館は、地学（地球科学）に対する関心や理解を深めると共に、地学の研究を奨励することを目的に、『益富地学賞』の募集を行いません。近年は、人々が野外で自然と触れあって観察や研究する機会が少なくなっていると感じられます。自然の真の姿を知るためには、自然の中に分け入って、その中から発見した疑問やふしぎを解明してゆく心を養っていくことが大切です。益富地学会館では地球科学の分野において、地球の中から見出した発見や研究に、『益富地学賞』の各賞を贈呈しています。平成 27 年度は 23 回目となる『益富地学賞』、各賞の募集をします。

◇募集部門

◀部門Ⅰ▶ 研究部門

地球科学（地質・火山・地震・岩石・鉱物・古生物 など）の分野に関する研究論文を対象とします。天文・気象は除きます。

◀部門Ⅱ▶ 標本部門

鉱物、化石、地質に関する標本を対象とします。学術的、博物学的価値がある標本のほか、地学教育的な付加価値がある組標本（特定の目的の為に収集された、統一性のある複数の標本からなるセット標本）も対象となります。

◀部門Ⅲ▶ 写真部門

地球科学（鉱物・岩石・古生物・火山・地質現象・地形や景観など）の分野に関する写真を対象とします。天文・気象は除きます。

◀『地学研究』論文部門▶

日本地学研究会発行の『地学研究』に、過去 1 年以内に掲載された論文の中から選考されます。『地学研究』への投稿は日本地学研究会会員に限られます。原著論文だけでなく、アマチュアによる独自性のある研究も選考対象になります。

◇応募資格

なし [ただし、『部門Ⅰ・研究部門』は生徒(小学生・中学生・高校生)のみ応募可]
各部門とも、ひとり当たり規定の件数応募できます。規定以上応募した場合失格となります。

◇応募にあたって

◀部門Ⅰ▶ 研究部門

- 1) 研究内容は、野外での調査や観察を伴うものに限り、単なる先行研究等の文献のまとめや、インターネットや書籍から得た情報をそのまま引用したものは対象外です。
- 2) 応募は個人に限り、共同やグループでの研究は、『地学研究』に投稿し、『地学研究』論文部門に応募して下さい。
- 3) 研究論文は日本語のもの限定です。日本語で 400 字程度の、研究についての要約を付けてください。論文の用紙は特に規定しませんが、A4 サイズを推奨します。頁数や図表の数についても規定しませんが、不必要な頁、図表などが多すぎる場合は減点評価となりますので、注意して下さい。
- 4) 研究の対象となった『標本（鉱物・岩石・化石など）』を添付することが望ましいです。
- 5) ひとり 1 研究のみ応募可能で、1 研究以上応募した場合は、失格とします。
- 6) 応募研究は、未発表のものに限り、ます。
- 7) 応募研究には、規定の応募票を添付して下さい。応募研究の報告文と標本などが別のファイルや容器に分かれている場合は、全てのものへ必ず氏名を記入して下さい。

8) 1)～7)の条件と応募方法の規定をみたしていない研究は受理できません。

【生徒(小学生・中学生・高校生)のみ応募できます。一般は『地学研究』論文部門にのみエントリーできます。】

9) 応募研究は、益富地学会館に送付して下さい。持参して頂くことも可能です。

10) 応募研究は、後日返却します。

応募者は審査結果通知後に各自で受け取りに来るか、もしくは着払いでの返送を希望するかを応募の際に選択して下さい。ただし入賞研究や作品は、益富地学会館等で展示されるため、返却は展示終了後になります。

*送付で返却の場合には、応募研究の破損などに関して、当会館は一切の責任を負いません。

《部門Ⅱ》 標本部門

- 1) 応募標本には、規定の応募票を添付して下さい。
- 2) 鉱物、岩石、古生物など地学と関連性のある標本が対象ですが、原則、購入した標本は対象としません。野外で応募者自身によって採取されたものが特に高く評価されます。
- 3) 標本ラベルには少なくとも、名称(和名・学名など)・採集地・採集日を記入してください。
- 4) 標本には、必ずテーマを表記し、標本ラベルとは別に日本語 400 字以内の解説を添付して下さい。この解説文の内容についても、評価の対象となります。
- 5) 標本箱は原則、サイズの上限を 50×40 cm、厚さ 10 cm とし、3 箱以内にまとめてください。但し、大型の標本はその限りではありません。
- 6) ひとり 2 件まで応募可能で、2 件以上応募した場合は、失格とします。
- 7) 応募標本は、未発表のものに限ります。
- 8) 応募標本には、規定の応募票を添付して下さい。複数に分かれている標本箱や解説文にはそれぞれに必ず氏名を記入して下さい。
- 9) 応募標本の送付については、《部門Ⅰ 研究部門》の 9 項、10 項と同じです。

《部門Ⅲ》 写真部門

- 1) 応募写真は、規定の応募票と共に、益富地学会館に持参もしくは郵送で提出して下さい。
- 2) 写真には日本語で 400 字以内の解説を添付して下さい。この解説文の内容も、評価の対象になります。解説文には必ず、題名、撮影場所、撮影日、撮影者を明記し、写真の裏には、題名、応募者氏名を記入して下さい。
- 3) 応募写真は、A4 サイズのプリントで提出してください(デジタル写真の場合は、電子データを添付してください)。応募は一人 3 点までです。
- 4) 応募写真は原則として返却しません。

※写真の応募にあたっての注意

◎写真(特に露頭の写真)には大きさのわかるスケール、或はそれに代わるもの(ハンマー、人、車など)を写しこむこと。どうしても大きさのわかるものが入らなかった場合には、解説の中で大きさを具体的に示して下さい。

◎人物が写っている場合には、肖像権や個人情報等に充分注意を払うこと。

《地学研究論文部門》

『地学研究』に掲載された論文から選考する(『地学研究』投稿規定参照)。

◇**個人情報について**：当会館の研究応募で提供された個人情報は、承諾なく第三者に提供しません。ただし、入賞発表や表彰式などのほか、広報媒体への露出や研究展示、益富地学会館が発行する『地学研究』『館報』などで公表することがあります。

◇各 賞

〈部門Ⅰ〉 研究部門

◆優秀賞 表彰状・副賞（3万円） ◆科学奨励賞：表彰状・副賞 ◆特別賞：表彰状

〈部門Ⅱ〉 標本部門

◆優秀賞 学生部門：表彰状・副賞（1万円） 一般部門：表彰状・副賞（1万円）

◆佳作 学生部門：表彰状 一般部門：表彰状

◆特別賞：表彰状

〈部門Ⅲ〉 写真部門

◆優秀賞 学生部門：表彰状・副賞（1万円） 一般部門：表彰状・副賞（1万円）

◆佳作 学生部門：表彰状 一般部門：表彰状

◆特別賞：表彰状

〈『地学研究』論文部門〉

◆『地学研究』論文賞：表彰状

◆産経新聞特別賞：審査対象となった研究・作品の中から産経新聞社より産経新聞特別賞が授与されます。

◆参加賞：部門Ⅰ、部門Ⅱ、部門Ⅲの審査対象者全員に進呈いたします。

◇審査・結果発表・表彰式

〈審査〉

12月上旬に、益富地学賞審査委員会において審査し、各部門の賞を決定します。

〈益富地学賞審査委員会〉

第23回『益富地学賞』審査委員

委員長：野上裕生（元京都大学教授・元京都女子大学教授・益富地学会館理事）

委員：横山卓雄（同志社大学名誉教授・益富地学会館評議員会議長）

石田志朗（元山口大学教授）

下林典正（京都大学国際高等教育院教授）

吉田光廣（元京都市青少年科学センター）

藤浦 淳（産経新聞大阪本社文化部長）

磯部敏雄（中学校教員・益富地学会館運営委員）

福井清子（益富地学会館運営委員）

藤原 卓（益富地学会館・主任研究員）

石橋 隆（益富地学会館・研究員）

〈結果発表〉

審査後、入賞者には別途直接通知します。

〈表彰式〉

1月中旬に、京都府京都市左京区岡崎公園、京都市勸業館“みやこめっせ”で実施。

〈受賞研究等の展示〉

表彰式会場、益富地学会館（京都市上京区）、石ふしぎ大発見展・大阪ショー（大阪市天満橋で実施）、産経新聞に掲載

◇応募先：益富地学会館『益富地学賞』係

〒602-8012 京都市上京区出水通烏丸西入中出水町 394

TEL 075-441-3280 FAX 075-441-6897 E-mail: info@masutomi.or.jp

締切日：平成27年11月30日必着（応募受付開始は、11月1日から）

第 23 回益富地学賞 応募票

応募期間 2015 年 11 月 1 日～30 日

応募部門 (○で囲む) 部門Ⅰは校種区分 学年記入	≪部門Ⅰ≫研究部門			≪部門Ⅱ≫標本部門	≪部門Ⅲ≫写真部門
	小学校	中学校	高等学校		
	学年	年生			
応募研究名 標本の表題(テーマ) 写真の題名					
フリガナ			電話番号 (日中に連絡の付き易い番号)		
氏名					
住所	〒				
返却方法 (○で囲む)	会館で直接、受け取る			宅配便で返送を希望する	

* 写真の返却はいたしません。

益富地学賞 応募票(副票)

応募研究名 標本の表題(テーマ) 写真の題名					
フリガナ			電話番号 (日中に連絡の付き易い番号)		
氏名					

応募研究・作品 受領書

応募研究名 標本の表題(テーマ) 写真の題名			受領印
応募者氏名			

上記の研究・作品を 益富地学会館が受け取りました。